

「反対意見を考えて説得力のある意見文で発信しよう」
自分たちができること－大野見の未来－（5年生）
「資料を活用して説得力のある意見文で発信しよう」
自分たちができること－大野見から世界へ－（6年生）

発行
令和6年1月
中部教育事務所



本単元で身につけさせたい資質・能力
「書くこと」考えの形成・記述 ウ

- ◇第5学年 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- ◇第6学年 「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

中土佐町立大野見小学校

教材
第5学年 「反対の立場をを考えて意見文を書こう」
(東京書籍5年)
第6学年 「世界に向けて意見文を書こう」
(東京書籍6年)

①教材研究会から授業研究会への歩み

大野見小学校では、教材研究会で出された意見をもとに「単元のゴール」そして、「何について書かせるのか」を再度、全校で協議を行った。単元のゴールについては、子どもたちが本単元で育成を目指す資質・能力へ向かって、より自分事として必要感をもちながら言語活動を遂行できるものに、そして題材は自分たちの身近なことを取りあげて「書いて伝えたい」という思いをより強められるように、といったことが協議され、指導案を加筆・修正しながら取組を進めた。第1次の1時間目には、校長先生から、直に子どもたちへ向けて学校便り執筆のお願いが来るという場面を設定し、書くことの必要性をもって、学習をスタートすることができた。題材については、カリキュラムマネジメントの視点で、総合的な学習と絡めたものとなっており、学習指導要領で求められている、「各学校の児童の実態に基づいた取組」となっているといえる。



今日は、5,6年生の皆さんにお願いができました。校長先生は、地域の方からよくこんなことを聞きます…。そこで5,6年生に学校だよりで発信してもらいたいです。

②複式特性を生かして、育成を目指す資質・能力へ向かう5年生では…

本時で育成を目指す資質・能力を身に付けた5年生の具体的な姿は、読み手が納得することができるように、予想される反対意見と、それへの対応がぴったり結びつくように簡単に書いたり詳しく書いたりする姿である。その際「確かに～ですが」等の共感する言葉を用いて書き表し方を工夫することで、説得力のある意見文にしていく姿を求めたい。授業者は、書くために必要な材料を事前に集めさせたり本時まで組み立てを整理させたりするなど、書きたいことをより明確化させた。そして児童が、構成したものを使って、どのように文章化させていくかを考えることができるよう、課題を焦点化した。さらに「相手を説得する」とはどういうことか、本時まで子どもたちの言葉で確認しあい、共通理解を図った。その上で、本時案の3にウエイトを置き、反対意見に対応する意見をどのように書いたのか直接指導で確認しあうことで、育成を目指す資質・能力にせまりたいと考えた。ここがまさしく教師がねらいに向けて理解を確実にさせるために、介入したい場面（赤丸枠）である。

複式学級では二つの学年の子どもたちにかかわることができる時間は限られている。子どもたちが「この時間、何ができるようになったらいいのかわか」を意識して言語活動を遂行していくことができるよう、どの場面でどんなアプローチをするのか、あらかじめ考えを持ち、ねらいにせまるための見通しを立てておくことが必要である。

【第5学年】	【第6学年】																																																																																																								
(1) 本時の目標 反対意見と説得力のある対応を考え、説得力のある意見文（本論）を書くことができる。	(1) 本時の目標 資料を効果的に活用し、説得力のある意見文（本論）を書くことができる。																																																																																																								
(2) 本時の評価規準 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。	(2) 本時の評価規準 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。																																																																																																								
(3) 本時の展開(5/7)	(3) 本時の展開(5/7)																																																																																																								
<table border="1"> <tr> <th>指導上の留意点</th> <th>学習活動</th> <th>直接 間接</th> <th>指導上の留意点</th> </tr> <tr> <td>□評価規準(評価方法)</td> <td></td> <td></td> <td>□評価規準(評価方法)</td> </tr> <tr> <td>・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。</td> <td>1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)</td> <td>■ ■</td> <td>・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。</td> </tr> <tr> <td>・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</td> <td>②説得力のある工夫を使って、本論を書く。</td> <td>■ ■</td> <td>・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</td> </tr> <tr> <td>■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</td> <td>2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)</td> <td>□ □</td> <td>■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</td> </tr> <tr> <td>・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。</td> <td>③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</td> <td>■ □</td> <td>・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。</td> </tr> <tr> <td>・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</td> <td>3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</td> <td>■ □</td> <td>・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4. 本時の学びをまとめ(5分)</td> <td>■ □</td> <td>・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④説得力のある意見文にするためには、反対意見を考え、反対の人に納得してもらえ、自分の表現の工夫を入れるとよい。</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. 本時の学びをまとめ(5分)</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. 振り返りを交流する。</td> <td>■ ■</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. 振り返りを交流する。</td> <td>■ ■</td> <td></td> </tr> </table>	指導上の留意点	学習活動	直接 間接	指導上の留意点	□評価規準(評価方法)			□評価規準(評価方法)	・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。	1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)	■ ■	・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。	・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	②説得力のある工夫を使って、本論を書く。	■ ■	・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)	□ □	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。	③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。	・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。	3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。		4. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □	・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。		④説得力のある意見文にするためには、反対意見を考え、反対の人に納得してもらえ、自分の表現の工夫を入れるとよい。	■ □			5. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □			④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。	■ □			6. 振り返りを交流する。	■ ■			6. 振り返りを交流する。	■ ■		<table border="1"> <tr> <th>指導上の留意点</th> <th>学習活動</th> <th>直接 間接</th> <th>指導上の留意点</th> </tr> <tr> <td>□評価規準(評価方法)</td> <td></td> <td></td> <td>□評価規準(評価方法)</td> </tr> <tr> <td>・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。</td> <td>1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)</td> <td>■ ■</td> <td>・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。</td> </tr> <tr> <td>・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</td> <td>②説得力のある工夫を使って、本論を書く。</td> <td>■ ■</td> <td>・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。</td> </tr> <tr> <td>■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</td> <td>2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)</td> <td>□ □</td> <td>■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)</td> </tr> <tr> <td>・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。</td> <td>③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</td> <td>■ □</td> <td>・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。</td> </tr> <tr> <td>・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</td> <td>3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)</td> <td>■ □</td> <td>・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>4. 本時の学びをまとめ(5分)</td> <td>■ □</td> <td>・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>5. 本時を振り返る。(10分)</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>引き出した振り返りの具体 説得力のある意見文にするために、SDGsの〇〇〇の目標について△の資料を使って事実と意見を分けて書きました。自分たちができることは難しいと考える人も多いと思ったので、△の資料の具体的な数を挙げて、「～はどうだろう」や「できるのではないだろうか」という提案の言葉を使いました。</td> <td>■ □</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. 振り返りを交流する。</td> <td>■ ■</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>6. 振り返りを交流する。</td> <td>■ ■</td> <td></td> </tr> </table>	指導上の留意点	学習活動	直接 間接	指導上の留意点	□評価規準(評価方法)			□評価規準(評価方法)	・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。	1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)	■ ■	・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。	・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	②説得力のある工夫を使って、本論を書く。	■ ■	・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)	□ □	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。	③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。	・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。	3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。		4. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □	・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。		④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。	■ □			5. 本時を振り返る。(10分)	■ □			引き出した振り返りの具体 説得力のある意見文にするために、SDGsの〇〇〇の目標について△の資料を使って事実と意見を分けて書きました。自分たちができることは難しいと考える人も多いと思ったので、△の資料の具体的な数を挙げて、「～はどうだろう」や「できるのではないだろうか」という提案の言葉を使いました。	■ □			6. 振り返りを交流する。	■ ■			6. 振り返りを交流する。	■ ■	
指導上の留意点	学習活動	直接 間接	指導上の留意点																																																																																																						
□評価規準(評価方法)			□評価規準(評価方法)																																																																																																						
・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。	1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)	■ ■	・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。																																																																																																						
・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	②説得力のある工夫を使って、本論を書く。	■ ■	・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。																																																																																																						
■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)	□ □	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)																																																																																																						
・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。	③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。																																																																																																						
・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。	3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。																																																																																																						
	4. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □	・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。																																																																																																						
	④説得力のある意見文にするためには、反対意見を考え、反対の人に納得してもらえ、自分の表現の工夫を入れるとよい。	■ □																																																																																																							
	5. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □																																																																																																							
	④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。	■ □																																																																																																							
	6. 振り返りを交流する。	■ ■																																																																																																							
	6. 振り返りを交流する。	■ ■																																																																																																							
指導上の留意点	学習活動	直接 間接	指導上の留意点																																																																																																						
□評価規準(評価方法)			□評価規準(評価方法)																																																																																																						
・前時の振り返りから、読み手にとって分かりやすい文章の表現の工夫があることをおさえる。	1. 教材文から「説得するための工夫」を見つけて、課題を確認する。(10分)	■ ■	・前時の振り返りから、数値や割合などを具体的に書く必要があることをおさえる。																																																																																																						
・説得力を増すためには、反対意見を考え、それに対する対応を書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。	②説得力のある工夫を使って、本論を書く。	■ ■	・説得力を増すためには、事実(資料などから分かる客観的な事実)と意見とを関係付けて書く必要があることをおさえ、課題へつなげる。																																																																																																						
■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)	2. 構成メモを基に、意見文(本論)を書く。一人学び(10分)	□ □	■ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(Chrome book)																																																																																																						
・自分の意見文に取り入れた納得してもらった工夫は何かを考える場を設ける。	③意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・説明が不足している箇所がないかや使うよい言葉や表現が示されているか見取り、全体へ返す。																																																																																																						
・本時を振り返り、身に付いた力を6年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。	3. 意見文を交流し、説得力の工夫を伝え合う。とも学び(10分)	■ □	・自分の意見文に取り入れた説得力を増す工夫は何かを考える場を設ける。																																																																																																						
	4. 本時の学びをまとめ(5分)	■ □	・本時を振り返り、身に付いた力を5年生と交流することで、単元の目標に対する自分の成長を実感させる。																																																																																																						
	④説得力のある意見文にするためには、資料を使って、事実と意見を明確にして、数値などの説得力を持たせる工夫を入れるとよい。	■ □																																																																																																							
	5. 本時を振り返る。(10分)	■ □																																																																																																							
	引き出した振り返りの具体 説得力のある意見文にするために、SDGsの〇〇〇の目標について△の資料を使って事実と意見を分けて書きました。自分たちができることは難しいと考える人も多いと思ったので、△の資料の具体的な数を挙げて、「～はどうだろう」や「できるのではないだろうか」という提案の言葉を使いました。	■ □																																																																																																							
	6. 振り返りを交流する。	■ ■																																																																																																							
	6. 振り返りを交流する。	■ ■																																																																																																							

②複式特性を生かして、育成を目指す資質・能力へ向かう6年生では…

本時で育成を目指す資質・能力を身に付けた6年生の具体的な姿は、読み手が納得するように、資料から分かること(事実)と自分の考えを結びつけて書く姿。その際、事実と感想、意見とを区別するために文末表現に注意し書き表し方を工夫することで、説得力のある意見文にしていく姿を求めたい。授業者は、これまでの時間で自分が何を発信したいのか、6年生に明確にさせた。その上で書く材料を児童が準備し、本時まで構成メモを充実させておくという手立てによって、どのように文章化していくかを自力で考えることができるように課題を焦点化した。本時案では、記述の際は同時間接を行い、両学年の様子を把握している(青丸枠)。その後指導をずらしながら「とも学び」の際に課題にせまり、大事なところをおさえ(赤丸枠)、まとめを子どもに任せる(緑丸枠)といった、「教師が引っ張る」のではなく、「できるだけ自分たちで学習を進めていく」という流れで協働的に学ぶ場面を設定した。

③ICTの効果的な活用

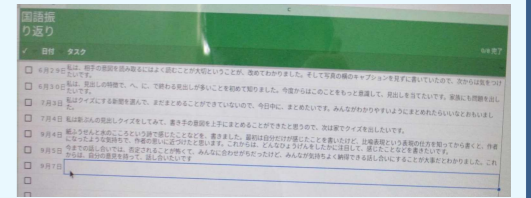
・学習過程での活用

本単元においては、両学年ともに、全学習過程において文房具のように端末を操作する児童の姿が見られた。効果的な活用の場面としては題材の設定の際、なぜその題材で書こうとしているのか、端末上に打ち込んだ理由を電子黒板に送信し、間接指導時の共学びにおいて共有する姿が見られた。



・振り返り場面での活用

毎時間、授業終末の振り返りをスプレッドシートに打ち込んでいる。これにより、児童が自らの学びの蓄積を確認しながら学習を進めていくことができる。その際、どんなことを振り返るのか、教師から具体的声かけを工夫している。



☆講座に参加した先生方の声

・本時で育成を目指す資質・能力に向けて、単元構成、時間配分などが大切だと分かった。また、複式の特性を生かすことで、主体的・協働的な学びを引き出しやすくなることも勉強になった。
・本日の授業は、綿密な準備と事前指導の上に成り立っていた。そのような時間を捻出し、準備をした上で、指導に当たる必要がある。タブレットを有効に活用することで、多くの資料を整理したり、互いに見えるようにしたりできることを実際に見ることができた。今後、使い方の幅を広げたい。



④複式授業づくり講座(教材研究会) 講師 片岡さえ先生より ・単元のゴール

本単元では「自分たちの思いを伝えたい」という児童の思いを大切にしたい。発信をするために書くのだということを児童が意識して書くことのできる単元構成にすることが大切である。また、目標へ向かって書いた文章の評価は、発信する前に、身に付ける力に照らして書くことができているかどうかを、具体的な語や文等を取り上げて友だちや先生と評価し合う場面を設定することが必要である。

・複式授業で思考を深め、練り合うために

とも学びは、直接指導なしでは成り立たない。思考を深め練り合うためには、効果的な「ずらし」や「わたり」を行い、教師はより効果的な提示でねらいに迫る働きかけをすることが大切である。

・子どもの反応をできるだけの確に予想

子どもの反応を予想するためには、少人数の利点を生かして、日頃の児童理解を図りたい。また、教材の事前研究会においては、模擬授業で児童の反応を予測し、予想外の返答にも対応できるようにしておく必要がある。